

# 赤山領と赤山陣屋



埼玉高速鉄道新井宿駅から北東に20分ほど歩くと左手に赤山陣屋(赤山城跡)があります。ここには1792年に伊奈氏が関東郡代を失脚するまで163年間に渡り代官所や居館、家臣屋敷などがありました。左図を見れば、いかに広大だったかがわかり、伊奈氏の権勢のほどがわかります。

ちなみに現在の「赤山」という地名はこの赤山陣屋のあった場所がそのまま地名となりました。新編武蔵風土記稿には元和4年(1618年)伊奈半十郎忠治関東郡代及び駿、遠、参(駿河、遠江、三河)の国々の御代官の命を蒙り、乃ち赤芝領7千石を賜りてのち、寛永6年(1629年)の頃、赤芝山、新井宿、安行村等の荒野を拓き、陣屋を構えて、

赤芝山を略し唱えて赤山と言ひし」とあります。伊奈氏は荒野を自ら開拓して陣屋を築いたそうです。赤山という地名は赤芝山を略して赤山と言ったのが始まりとされています。

## なぜ赤山に陣屋を構えたか？

1618年(元和4年)関東代官頭の伊奈忠次の嫡男忠政が死ぬと、その嫡男忠勝(9歳)は幼少だったため、代官頭の職は忠次の次男忠治が継ぐことになった。その時に賜ったのが川口市の北東部と草加市の北西部、さいたま市桜区辺りの計28村7,187石です。植田谷領以外が赤山領ですが、ほぼその中央の台地上赤柴山が適地として選ばれたと思われます。

右図を見ると赤山領の半分以上が新田村なので、伊奈氏が来たら大いに開発が進んだこととなります。つまり、7千石を賜ったといっても、実質は伊奈氏自ら開発した結果7千石となったようです。

赤山に陣屋を選んだ理由として、小澤正弘氏は同時期に始まった将軍の日光社参のサポートをする意味もあったのではないかと言っています。実際伊奈氏は将軍の社参の度に将軍の接待と行列のサポートをしています。日光御成道から至近距離の赤山陣屋はその意味でも適地だったようです。

領	村名	忠治時代(正保4)	忠克時代(承応2.12.22)
赤山領	○安行村	419,561*	忠克19村 3,966,099*
	○新井宿村	142,509	その後、
	○石神野村	287,903	○赤芝新田 143,073
	○立野家村	212,465	○差間村 5,227
	○領浦寺村	538,163	の2か村増加。
	○北原村	243,487	しかし、庄五郎新田は
	○湖左衛門新田	94,143	源左衛門新田の内となり、
	○庄五郎新田	17,252	合計20村
	○新兵衛新田	227,231	寛政4年忠尊の時に改
	○久左衛門新田	38,177	易され、上知。
	○長蔵新田	127,338	
	○吉藤八新田	150,521	
	●藤兵衛新田	147,633	
	●長右衛門新田	51,182	
	●清右衛門新田	271,283	
●九左衛門新田	398,870		
●根岸村	206,322		
●連花村	332,084		
●花家村	1,019,309	治嗣3村 1,574,090*	
●北谷村	439,375	万治2年死去。嗣なく上	
●普兵衛新田	115,406	知。	
●飯田村	379,035	忠重6村 1,647,499*	
●三條町	219,700	明治4年の家禄奉還ま	
●小計	243,513	で存続。	
植田谷領	25村	6,382,438	
飯田村	346,000		
三條町	250,250		
小計	209,000		
合計	3村	805,250	
	28村	7,187,688	

※は相輪の村を示す ○は英尋組15か村 ●は新田5か村を示す  
表7 伊奈忠治家系統の知行所  
(『武蔵風土記』等により作成)

赤山領の村々と石高

(小澤正弘「関東郡代伊奈氏の研究」より)

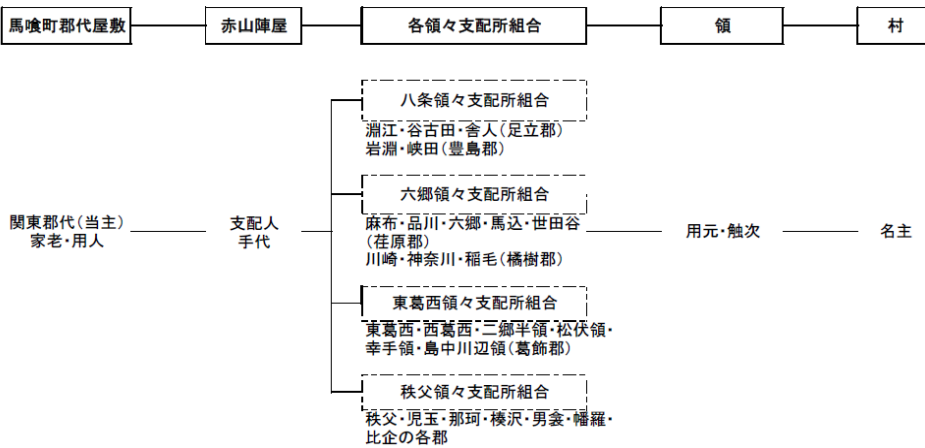
## 赤山と伊奈氏

徳川家の直臣(旗本・御家人)は江戸に住することを義務付けられていて、知行地(領地)を持った旗本でも現地に行くことはほとんどありません。。また、頻りに知行地も変わることから、その地に関心のある旗本はいなかった。しかし、伊奈氏にとって赤山は嫡祖忠治が自ら開いた地であり、初期の関東開発は赤山陣屋を中心に行われていました。代々の当主は馬喰町の郡代屋敷で執務していましたが、その後も代官所としての実務機能は赤山陣屋に残しました。代々の当主は赤山源長寺に葬られています。知行地に菩提寺があり、代々眠っているという旗本はずいぶんいます。このことから伊奈家にとって赤山は故郷であり、実家であったことがわかります。伊奈家は意識としては旗本というよりは大名に近かったようです。伊奈家は川口の殿さまと言っても全然間違いではありません。

# 赤山陣屋の役割

関東郡代は30万石という他の代官よりはるかに広大な幕府直轄領を支配していました。赤山陣屋はその重要拠点であり、国元屋敷でした。

## 関東郡代の支配機構



関東郡代伊奈氏の研究(小澤正弘氏)より

- \* 関東郡代は馬喰町の郡代屋敷を頂点に、各支配村に至る整然とした支配系統を確立していた。
- \* 赤山陣屋は関東郡代支配地の官庁であり、ここでは支配地を4つに分けて業務を取り仕切っていた。
- \* 4つの地域とは上図の支配組合のことです。
- \* 主たる業務は年貢の徴収で、他にも馬喰町から出た触書なども赤山陣屋を通じて各支配組合一村々というように通達されている。訴訟などは馬喰町で行っていたようです。

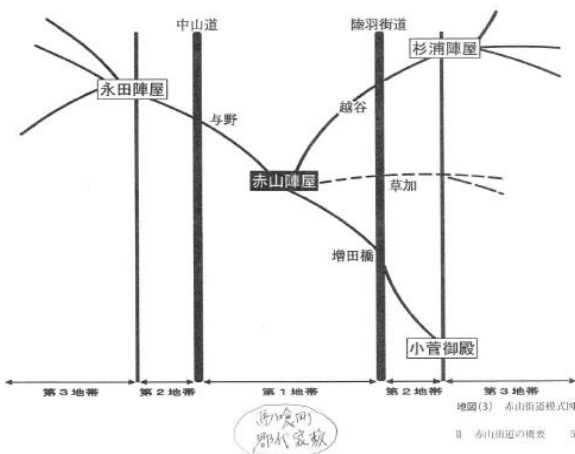
## 赤山街道

赤山街道は伊奈氏の本領にある赤山陣屋と東西の出先機関(西の永田陣屋と東の杉浦陣屋)と小菅御殿を結ぶ街道です。

伊奈氏が在任中は伊奈家家臣や支配民らが往来する主要道路でしたが、その後も主要道路として使われました。与野や越谷には今でも「赤山」という名が残っています。



伊奈家菩提寺の源長寺



赤山街道総合調査報告書より



赤山城址碑

主な資料—小澤正弘「関東郡代伊奈氏の研究」ほか